

今月のテーマ

レラカムイ(風の神)

本田優子(札幌大学教授)



アイヌ文化のことをもっともっと話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソノコ(=お便り)形式のエッセイです。



レラは風のこと。シヨップングモールの名前に
なっていたりするので、比較的近じみのあるア
イヌ語かしら。白老出身のアイヌの歌人 森竹竹市さ
ん(一九〇二―一九七六)の遺稿集『レラ』には「風の
ように」という意味。心惹かれるタイトルですね。

でも、頬をなでる優しい風ならいいけど、木々をな
ぎ倒すような大風が吹くと大
変。アイヌの物語には、度が過
ぎた悪戯(いたづら)をして懲らしめられ
る風の女神が登場します。

私はいつものように針仕事を
していたけれど、退屈したので、
美しい着物を重ね着して襟裳
岬の山の上で舞い踊った。する
と人間の村は荒れ果ててしまっ
たのに、二人の男の家だけが何事
もなかったように建っている。腹
が立ったので何日も踊り続けた
がさっぱり壊れもしない。疲れ

た私は家に戻って針仕事をしていたが、突然人間の男
が入ってきた。「女神の踊りがあまりに面白かったのでお返
しに私の踊りを見せよう」といって踊り出すと、私の家
は壊れ、木組みだけになった。さらに金の扇を取り出
して、寒雲の絵の方で私をあおぐと、激しい風で着物
が破れ、肌は水で避け破れた。太陽の絵の方であおぐ



イラスト/ 荘田悠人

と焦げ付くような陽光で死にそうになった。男は私が
人間の村を荒らしたことを責めたが、「尊い神なので
命だけは助けてやる」と言って、金の扇で私をあおい
だ。すると傷は癒え、家も元通りになった。ただの男だ
と思っていたが彼はアイヌラックルだったのだ。それから
私は穏やかなそよ風を送るようになった。

アイヌラックルは人間に文化
を教えた人文神のこと。村々を
破壊するような大風も、実は悪
戯な女神が踊りを踊っているの
だと語るところに、周囲世界へ
の柔らかな眼差しが感じられて
好きですね。これは金田一京助
先生が採録されたお話だけど、
菅野茂先生(のぶ)の『風の神とオキク
ルミ』もよく似たストーリーの
絵本です。これもオススメ。
ところが、レラにはもう一つの
意味があるのです。それは病気。

日本語の「かぜ」も、風だけじゃなく風邪を指すでしょ。
アイヌ語のレラは風邪どころじゃない流行病、つまりか
つてのアイヌの人たちを死に追いやった疱瘡(てんとうこ)の
ことも意味します。この恐ろしいカムイは海の彼方から
やってくるものとされていて、現在の新型「コロナウイルス
」によるパンデミックにも通じるものがありますね。



次回のテーマは「ウポポイ1周年」
村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)
が担当します。

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間
北海道白老町にOPEN



- 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
- 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 荘田悠人(しょうたゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。

